

野菜の需給・価格動向レポート(平成30年6月11日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

※・レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	5月の価格情報 (参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	5月の価格情報			6月の価格情報 (参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	5月下旬の関東及び近畿ブロックの入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	6月の主産地	生育及び価格の6月下旬までの見通し	
		上旬	中旬	下旬				平均価格	現時点の価格水準
		指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格						平均価格	現時点の価格水準
葉茎菜類	キャベツ	88.59	54 (61%)	59 (67%)	59 (67%)	67.20	・10.633t (109%)	千葉(39)、茨城(31)	千葉産は、出荷終盤を迎える中、天候に恵まれて順調な生育であることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。茨城産は、トンネル栽培ものが天候に恵まれて順調な生育であることから、現在は平年を上回る出荷となっているものの、今後は露地栽培に切り替わることから、平年並みの出荷の見込み。
		91.02	63 (69%)	58 (64%)	67 (74%)	81.66	・2.430t (96%)	茨城(36)、愛知(21)	千葉産の出荷が平年を上回ると見込まれるものの、茨城産の出荷は平年並みになると見込まれることから、現在平均を下回っている価格は平均に近づくものの、引き続き平均を下回って推移する見込み。
	たまねぎ	85.93	85 (99%)	83 (97%)	77 (90%)	85.93	・8.081t (122%)	佐賀(34)、兵庫(11)	佐賀産及び兵庫産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		85.93	86 (100%)	84 (98%)	81 (94%)	85.93	・2.508t (111%)	兵庫(49)、長崎(18)	佐賀産及び兵庫産の出荷が平年並みと見込まれるものの、流通在庫があることから現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	291.18	400 (137%)	485 (167%)	350 (120%)	291.18	・1.722t (116%)	茨城(63)、千葉(23)	茨城産及び千葉産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		334.20	298 (89%)	270 (81%)	258 (77%)	334.20	・251t (131%)	香川(31)、徳島(21)	5月中旬以降、入荷、需要ともに安定し、日を追うごとに値を下げている中で、茨城産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
	はくさい	67.05	44 (66%)	62 (92%)	48 (72%)	67.05	・2.712t (130%)	長野(48)、茨城(34)	長野産は、天候に恵まれて順調な生育であることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。茨城産は、3月中旬以降の気温上昇や4月以降の降雨により生理障害が発生して正品率が下がることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。
		74.06	63 (85%)	80 (108%)	79 (107%)	74.06	・1.298t (148%)	長野(79)	茨城産の出荷が平年を下回ると見込まれるものの、長野産の出荷が平年を上回る見込みであることや、流通在庫もあることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
	ほうれんそう	376.10	411 (109%)	472 (125%)	431 (115%)	376.10	・824t (119%)	群馬(35)、茨城(29)	群馬産は、天候に恵まれて順調な生育であることから、引き続き平年を上回る見込み。茨城産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		416.73	477 (114%)	523 (126%)	512 (123%)	416.73	・386t (113%)	岐阜(65)、茨城(9)	5月中旬以降は入荷も増加傾向となり、日を追うごとに値を下げている中で、群馬産の出荷が平年を上回ると見込まれるものの、茨城産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
	レタス (結球)	156.23	112 (72%)	104 (67%)	136 (87%)	120.13	・4.464t (103%)	長野(72)	長野産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		165.00	123 (75%)	102 (62%)	160 (97%)	125.61	・1.328t (91%)	長野(95)	長野産の出荷が平年並みと見込まれることから、気温の上昇とともに需要が多くなり、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
果菜類	きゅうり	199.33	199 (100%)	289 (145%)	238 (119%)	199.33	・7.346t (115%)	埼玉(28)、群馬(21)	埼玉産及び群馬産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		195.38	185 (95%)	290 (148%)	218 (112%)	195.38	・2.121t (106%)	宮崎(25)、佐賀(23)	5月中旬以降入荷も安定し、日を追うごとに値を下げている中で、埼玉産及び群馬産の出荷が平年並みと見込まれることから、天候不順により一時的に価格が上がったが、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
	トマト (大玉)	242.08	259 (107%)	239 (99%)	205 (85%)	242.08	・7.372t (118%)	栃木(24)、熊本(17)	栃木産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。熊本産は、作付面積が増加している中、順調な生育であることから平年を上回る出荷となっているものの、気温の上昇で肥大が進まないうちに着色が進んで小玉傾向となることから、今後は平年並みの出荷の見込み。
		239.96	263 (110%)	239 (100%)	211 (88%)	239.96	・2.660t (121%)	熊本(41)、北海道(15)	栃木産及び熊本産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、平均並みで推移する見込み。
	なす	311.92	361 (116%)	383 (123%)	369 (118%)	311.92	・2.569t (114%)	高知(49)、群馬(22)	高知産は、一部に黒枯れ病がでていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。群馬産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		271.01	337 (124%)	348 (128%)	332 (123%)	271.01	・1.110t (111%)	高知(26)、福岡(19)	群馬産の出荷が平年並みと見込まれるものの、高知産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回る価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
ピーマン	339.20	348 (103%)	321 (95%)	307 (91%)	290.48	・1.598t (110%)	茨城(81)	茨城産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	
	311.41	275 (88%)	250 (80%)	218 (70%)	307.99	・830t (146%)	宮崎(30)、大分(20)	茨城産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。	
根菜類	だいこん	86.59	66 (76%)	79 (91%)	89 (103%)	86.59	・2.837t (76%)	青森(57)、千葉(19)	青森産及び千葉産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		85.05	58 (68%)	59 (69%)	63 (74%)	85.05	・1.865t (88%)	青森(37)、北海道(32)	青森産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
	にんじん	156.99	161 (103%)	120 (76%)	93 (59%)	133.01	・5.568t (141%)	千葉(76)	千葉産は、天候に恵まれて順調な生育であることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。
140.94		150 (106%)	106 (75%)	71 (50%)	132.62	・2.456t (133%)	長崎(63)、和歌山(14)	千葉産の出荷が平年を上回ることから、現在平均を下回る価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。	

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成23～28年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格であり、農林水産省で公表している「野菜の生育状況及び価格見直し」における平均価格(平成25～29年)とは異なる。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。

1 主要野菜の生産出荷状況

※・レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	5月の価格情報 (参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格 指定野菜の関東・近畿ブロック 平均販売価格	5月の価格情報			6月の価格情報 (参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	5月下旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	6月の主産地	生育及び価格の6月下旬までの見通し	
		上旬	中旬	下旬					
		上旬	中旬	下旬					
いも類	ばれいしょ	145.31	110 (76%)	107 (74%)	95 (65%)	145.31	-6,002t (137%)	長崎(49)、静岡(13)	<p>「図の見方」 平均価格 現時点の価格水準 現時点の価格水準 平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。</p>
		152.23	125 (82%)	125 (82%)	116 (76%)	152.23	-1,695t (90%)		

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成23～28年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格であり、農林水産省で公表している「野菜の生育状況及び価格見通し」における平均価格(平成25～29年)とは異なる。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したものである。

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	5月の価格情報 (参考) 過去5カ年平均価格 東京・大阪市場の旬別価格	5月の価格情報			6月の価格情報 (参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	5月下旬の東京及び大阪市場の入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	6月の主産地	生育及び価格の6月下旬までの見通し	
		上旬	中旬	下旬					
		上旬	中旬	下旬					
洋菜類	ブロッコリー	335.48	342 (102%)	413 (123%)	355 (106%)	335.48	-1,013t (128%)	長野(27)、福島(16)	<p>「図の見方」 平均価格 現時点の価格水準 現時点の価格水準 平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。</p>
		389.06	356 (92%)	372 (96%)	347 (89%)	389.06	-331t (122%)		

注：1 平均価格は、過去5カ年(平成25～29年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したものである。

2 野菜の輸出入動向 - 野菜の輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入について -

○輸入について

貿易統計によると、平成30年4月の生鮮野菜の輸入量は、9万2千トン(前年同月比103%)となり、前年並みとなった。また、加工野菜は、16万9千トン(同112%)であり、野菜全体では、26万1千トン(同108%)となった。このうち、中国産の輸入数量は合計で12万7千トン(同106%)と輸入量の49%を占めた。
4月の輸入量は、昨秋の天候不順による野菜の高騰を受け、輸入が前年を超過していたが、国産野菜の順調な出荷により価格が前年並みに近づいたことで、輸入も落ち着いてきた。
当月における品目別の動向をみると、主要品目は概ね前年並みもしくははや減少しているものが多かった。
キャベツで同141%の9,464トンとなったが、今冬において大幅に増加した輸入量はここにきて落ち着いてきている。主要輸入先の中国の動向をみると1月は同820%、2月は同306%、3月は同258%と大幅に増加していたのが4月は88%と前年を下回り、高騰の影響による輸入増加が収まってきた気配である。
また、数量的には少なく輸入上位に入っていないが、ブロッコリーは前年同月比200%の1,221トンの輸入となっている。これは昨年引き続いて輸入が増加しているものであり、主要輸入先である米国からの同348%の増加分がそのまま輸入量の増加につながっている。

野菜の輸入数量

野菜全体の輸入量(平成30年4月)

区分	平成28年		平成29年		平成30年	
	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量
生鮮野菜	89	89,663	118	92,263	103	92,263
加工野菜	88	151,237	103	169,049	112	169,049
野菜合計	88	240,901	108	261,312	108	261,312
うち中国産野菜合計	88	120,030	115	127,103	106	127,103
中国産シェア		47		50		49

主な生鮮野菜の輸入先(平成30年4月)

区分	輸入合計	1位		2位		3位		
		前年同月比	国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ	25,731	97	中国	22,580	ニュージーランド	2,367	オーストラリア	465
かぼちゃ	14,239	98	ニュージーランド	13,062	メキシコ	1,173	グアテマラ	4
にんじん	10,874	118	中国	8,268	ベトナム	1,196		
キャベツ	9,464	141	中国	5,394	台湾	1,454	アメリカ	1,255
ばれいしょ	5,315	97	アメリカ	5,303	中国	12		
ねぎ	4,775	92	中国	4,775	0	0		
ごぼう	3,778	89	中国	3,599	台湾	179		
ジャンボピーマン	3,252	83	韓国	2,933	オランダ	185	ニュージーランド	125

同(平成29年4月)

区分	輸入合計	1位		2位		3位		
		前年同月比	国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ	26,467		中国	19,113	ニュージーランド	6,728	オーストラリア	472
かぼちゃ	14,493		ニュージーランド	13,003	メキシコ	1,490		
にんじん	9,231		中国	7,454	ベトナム	671	台湾	564
キャベツ	6,718		中国	6,111	台湾	188	アメリカ	146
ばれいしょ	5,490		アメリカ	5,435	中国	55		
ねぎ	5,196		中国	5,196				
ごぼう	4,245		中国	4,083	台湾	161		
ジャンボピーマン	3,924		韓国	3,618	ニュージーランド	254	オランダ	47

野菜の輸出数量

野菜全体の輸出量(平成30年4月)

区分	平成28年		平成29年		平成30年	
	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量
生鮮野菜	328	789	29	743	94	743
加工野菜	111	839	102	1,074	128	1,074
野菜合計	226	1,627	46	1,817	112	1,817

主な生鮮野菜の輸出先(平成30年4月)

区分	輸出合計	1位		2位		3位		
		前年同月比	国名	数量	国名	数量	国名	数量
ながいも	477		台湾	232	アメリカ	192	シンガポール	49
いちご	79		香港	58	シンガポール	14	タイ	4
きのこ(その他、ほらたけ属以外)	63		台湾	28	香港	20	タイ	8

同(平成29年4月)

区分	輸出合計	1位		2位		3位		
		前年同月比	国名	数量	国名	数量	国名	数量
ながいも	456		台湾	251	アメリカ	160	シンガポール	41
きのこ(その他、ほらたけ属以外)	105		台湾	63	タイ	18	香港	14
いちご	84		香港	72	台湾	6	シンガポール	4

資料：農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料：財務省「貿易統計」)
※平成29年1月以降、関税法の統計品目番号の変更により、「にんじん及びかぶ」が「にんじん」と「かぶ」に分離・集計されています。
※四捨五入の関係上、合計と各計の数字は一致しないことがあります。

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 斎藤、山田、長島 TEL03-3583-9793、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。
※無断転載せず ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。